



266 号
2021/9

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



瀋陽故宮：昔、皇帝の前でしか踊らなかった宮女たちも、いまは瀋陽故宮を訪れた観光客の前で踊っている。瀋陽故宮は中国瀋陽市に残る清朝の離宮で、盛京皇宮と呼ばれていた。建物は昔のままだが、踊りは創作舞踊のようだ。
(遼寧省瀋陽市 2015年2月 撮影 満柏)

‘わんりい’ 2021年9月号の目次は20ページにあります

「螳螂車轍とうろうしゃてつに当たる」と読みますが、日本語では、「螳螂の斧」と言い慣わしています。

・>・>・>・>・>・

イナゴとカマキリが草むらで出会いました。それぞれが、自分の方が相手よりすぐれていると思っています。

イナゴが言いました：「オレ様の足は強いんだぞ。一度飛ぶと身体を地面から 1mも高いところまで持ちあげてくれるんだ」とすると、カマキリは自分の腕を振り上げて言います：「オレが腕を振り上げれば、車だって止めることが出来るんだぞ」しかしイナゴは、カマキリの話信じません。イナゴが自分の話を信じていないのを見ると、カマキリは憤慨して大通りへやって来ました。ちょうど車が一台路上に停まっていた。カマキリは車の下へ行き、両方の腕を振り上げてイナゴに言いました：「よ〜く見ていろよ。信じさせてやるからな」

ちょうどその時、車の持ち主が戻ってきて車を発進させたので、無情にも車の車輪がカマキリの身体を押しつぶして行ってしまいました。

・>・>・>・>・>・

言葉の意味：カマキリが前足を振り上げて相手に立ち向かっていく様子を言う。身の程知らずである。

使い方：誰もが、この事態を阻止するのは、不可能だと分かっている。個人で立ち向かうのは、まるで螳螂の斧、力不足である。

・>・>・>・>・>・

このお話、もともとは、戦国時代の人・そうし 荘子の書

物に出て来て、「そうじ 荘子・人間篇」では、「自分の才能をひけらかして相手の権威を侵すと危険な目に遭う」と言う忠告に使っています。もう一つは、同じ「らう 荘子・天地篇」に、ある人が魯の君主に献策をしたけれど、その進言は無謀なもので、「カマキリが車の車輪に歯向かうようなもので、たちまち押しつぶされてしまうだろう」と却下されています。つまりこの本では、そうし 荘子のこのお話を紹介しているわけです。

ところがネットを調べてみると、同じ「螳臂当车」を、前漢の人・かんえい 韓嬰が著した「韓詩外伝」を出典とするお話として紹介しているものもありました。「韓詩外伝」は、韓嬰がさまざまな事柄や故事を記して、関連する「詩経」の文言を引いて説明したもので、説話集に近いものだそうです。

そしてその「韓詩外伝」のお話では、せい そう 齊の荘公が狩りに出た時、カマキリが腕を振り上げて、車の車輪に挑みかかるのを見て、「何という虫か？」と尋ねました。御者が「何にでも自分の腕を振り上げて挑みかかってくる、身の程知らずな虫です」と笑ったのに対して、荘公は、「いや、これが人間であったなら、立派な勇者になったに違いない。勇気のある虫だ」と言って車の前からそっと外してやりました。それを聞いた天下の勇者たちが荘公のもとに集まり、強い軍隊が出来たそうです。

面白いですね。同じ虫の動作でも、一つは否定的にとらえて戒めとし、一つは肯定的にとらえて、人を鼓舞する話とする。中国の人たちの思考の柔軟性と言うか、多様性に驚かされます。さすが、「諸子百家」が活躍した国で



挿絵：満柏画伯

亡国の君主・李煜の〈詞〉

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

唐代中期に始まった〈詞〉と称する文芸ジャンルは唐末から五代にかけて一つの大きな山を築きます。

もともと妓女の遊芸に過ぎなかった俗謡に文人の手が加わり、より繊細かつ精緻な文芸へと脱皮し、後に中国伝統抒情詩の一端を担うようになります。そこに登場したのが李煜でした。

李煜(937~978)は南唐第3代の国主で、一般に李後主と呼ばれています。君主としては無能で、日夜遊興に耽ったあげく、在位中に宋軍の侵攻を受け、宋の都汴梁に拉致され幽閉された後、毒殺されました。

一方、書画文芸の才に恵まれ、特に〈詞〉の分野で大きな遺産を後世に残しました。その死の直前に書かれたと伝えられるのが次の作品『虞美人』です。

[原詩]

yú měi rén
虞美人

lǐ yù
李煜

chūnhuā qiū yuè hé shí liǎo
春花秋月何時了

wǎngshì zhī duōshǎo
往事知多少

xiǎo lóu zuó yè yòu dōng fēng
小樓昨夜又東風

gù guó bù kān huíshǒu
故國不堪回首

yuè míng zhōng
月明中

diāo lán yù qì yīng yóu zài
雕欄玉砌應猶在

zhǐ shì zhū yán gǎi
只是朱顏改

wèn jūn néng yǒu jǐ duō chóu
問君能有幾多愁

qià sì yī jiāng chūn shuǐ
恰似一江春水

xiàng dōng liú
向東流

[和訳]

春の花、秋の月

時は巡りて

くさぐさ
種々の、遠き思いぞ

果てしなき

ゆうべ とら
昨夜また、囚われの身に

こち きた
東風や来れる

みやこ
在りし日の都の空は

た つきあ
仰ぐに堪えず、月明かり

きんぎょく うてな
金玉の殿宇の跡は

せん
思うに先と変わらねど

やつ
ただ寔れしは

わが身かな

いくばく
幾何の憂いや有ると

と
人間わば

ひがし しゅんすい
東に向かう春水の

みなぎ ごと
漲る如と我は答えん



李煜像 (ウィキペディアから)

柳宗元の『柳州二月榕葉落尽偶題』

報告:花岡風子

今日のお題は中唐の詩人柳宗元(773~819)の書いた『柳州二月榕葉落尽偶題』(柳州二月榕葉の落ち尽くすに偶々題す)でした。柳宗元は、21歳の若さで科擧の試験に合格しています。この年齢で進士に及第するのは大変なことでした。その後、飛ぶ鳥落とす勢いでエリートコースを歩みますが、順宗の時、同期の劉禹錫と共に王叔文の政治改革運動に参画したため、33歳で左遷され、数え年46歳で亡くなるまで13年間、僻地の勤務が続きました。左遷生活の方が長かったこととなります。この詩は最後の任地の柳州(今の広西チワン族自治区)で亡くなる前に作られたものです。

柳州は、唐の都長安からみれば南の果てにあり、榕(ガジュマロ)の生い茂る熱帯気候の土地です。二月は新暦で言えば三月、都周辺は春たけなわの季節ですが、当地では激しい暴風雨のためにガジュマロの葉が散ってしまい、まるで秋のように寂しい風景になってしまった。その様子に感ずる所あって、たまたま書き置いたというのがこの詩のタイトルです。

講座では毎回、詩の内容に入る前に、植田先生が時代背景をお話くださいます。中唐の時代、安祿山の乱の後、没落した貴族に代わって台頭した保守派の旧官僚達が、宦官勢力と結託して権力を振るっていました。そのため、これに異を唱えた新進のエリート達が次々と左遷の憂き目に遭っていたという背景がありましたので、その点を押さえてから読んでいきましょう。

宦情羈思共に凄凄たり。

huàn qíng jī sī gōng qī qī
宦情羈思共凄凄

「宦情」とは役所勤めの悲哀を表わす言葉、「羈思」とは旅の愁いを表わす言葉です。この四文字に、この時代に働く若いエリート達の悲哀が込められています。「凄凄」は寒々とした物悲しい気分を表します。自らが正しいと思うことを主張したために、永州(今の湖南省)から柳州へと二度にわたって左遷されてしまったことへの作者の怒りとあきらめが同時に感じられる重い一句です。

春半ばにして秋の如く意転た迷う
chūn bàn rú qiū yì zhuǎn mí
春半如秋意转迷

本来なら春たけなわで、百花繚乱の季節を迎えるというのに、当地ではまるで冬を前にした秋の様に気持ちが減入っていく。「转」(転た)とは物事の進行を表わす副詞で、ここでは次第に気が減入っていく状態を表しています。

山城雨を過ぎて百花尽
shān chéng guò yǔ bǎi huā jìn
山城过雨百花尽

ここ山間の町では大雨の後、すべての花が散ってしまった。「城」は城壁に囲まれた都市や集落のことなので、ここでは作者の勤務する役所のある柳州のこと。

榕葉庭に満ちて鶯乱れ啼く
róng yè mǎn tíng yīng luàn tí
榕叶满庭莺乱啼

そしてガジュマロの葉が庭にいっぱい散って、鶯の声がやたらと騒がしい。

鶯と言っても、中国の鶯は一般に黄鹂鸟(huáng lí niǎo)と呼ばれるもので、鳥類図鑑にはコウライウグイスと記されていて、日本のそれとは種類も鳴き方も違う様で、どうもホーホケキョーと美しく啼くのではなく、キキッキー? と騒がしく啼く様です。日本人にとって、鶯の鳴き声からは長閑な田園風景や春の行楽をイメージできますが、この詩を見る限りでは、全く反対のイメージの様です。また、ガジュマロは常緑樹なので、秋になったからといって葉が散るわけではありません。たまたま暴風雨によって葉が吹き落とされたものと思われます。春なのに秋の様な気持ちだ、という表現には官仕えの悲哀を舐め尽くした作者の心象風景が重なっています。

「長安から柳州に飛ばされるのは非常に屈辱的な左遷です。こういう経歴を知ってから詩を鑑賞するのはそうでないのとではちょっと違いますね。これは単に自然を詠んだだけの詩でないことが分かります」「科擧の合格者は皇帝直属の部下と言っても、土

地も与えられず、中央の命令に従う他はなかったんです。今の政治家と一緒にですね。選挙に生き残るためには幹事長の言うことに従わないといけない（笑）」と、植田先生。

柳宗元は文章にも優れ、先輩の韓愈と同じく、この時代に流行していた飾り立てた文章ではなく、秦漢時代の文章を手本にした中身のある文章を書くという、いわゆる古文復興運動を提唱しました。この事からも誠実な人柄が伝わります。柳宗元は文筆家として唐宋八大家にも名を連ねています。これに名を連ねているのは、唐代では韓愈と柳宗元だけです。「韓愈は教育者らしく、ちょっと説教臭いですが、柳宗元は良い意味で目線が低いですね」と植田先生。

不本意ながら左遷された任地でも、土地の人と交流して一生懸命に当地の人たちの暮らしを良くしようと努力したようです。柳宗元は永州に赴任したときは、『捕蛇者説』という文を書いています。永州には、猛毒を持つ毒蛇が住んでいる山があり、そこで蛇を捕らえて暮らす者に話を聞くと、父も祖父も蛇に咬まれて死んだという。柳宗元が捕蛇者に何故そんな危険な土地を去らないのかと聞くと、山を降りると、税金の取立てが酷く、父や祖父より長生きした者もない。自分と同世代の者も重税により沢山死んでいる。だから、たとえ命の危険があってもこの仕事の方が、収入が多いから良いと答えたそうです。それを聞いた柳宗元は改めて悪政のもたらす害の大きさを思い知ったという話です。

さて、この時代、韓愈、白居易、劉禹錫、柳宗元、この四人は全員左遷されました。それぞれに正義を貫いた人生を歩みましたが、正義の貫き方が一人一人違うのがなんとも面白いです！ それぞれ左遷地で色々な目に遭いつつも、任地で精一杯の努力をした人達です。

■韓愈

反骨精神があり、持論を曲げない一方、あえて体制と戦わない。高い志を以て後継者の援助、育成に力を注いだ。

■柳宗元

任地の人たちのために、できる限りの努力をしつつ反骨に徹した。風景描写に巧みで、内心の孤独感、失望感を自然の風景の中に表現した。

■劉禹錫

左遷先で民謡に親しむ。民謡の雰囲気や詩作に取り入れて、新たなスタイルを生み出す。屈辱と憤懣の中に身を置きながら、けっこう左遷を楽しんでいた。

■白居易

体制批判の詩を書いたことがもとで左遷されたが、左遷先から中央に帰ると、詩風を改めるなど要領よく立ち回る。とはいえ決して変節することはなかった。

中国の文化は伝統的に、白黒ハッキリさせないフアジーなところが魅力でもあります。

正義にも多様性があります。人の数だけ人生があるように、もっと多様な価値観があってもいいんじゃないか。それが一神教的文化にない中国文化の魅力と言えます。

私たち日本には、入学試験や偏差値教育の影響で、ややもすると、すぐに答えを知りたがり、一つの正解を求めてしまう傾向がありますが、そもそも正義や人生観は多様性がある当たり前。柳宗元は、どちらかと言うと不器用なタイプだったかも知れませんが、人目にはどんなに無様に見えても、自分にしか歩めない道が誰にでもあるはずだと思うのです。

人生の後半は、希望に満ちていた若い時と違い、どう転んでも手に入れられないものがあることを受け入れる時間でもあります。そこから悲哀を感じることもあるけど、諦めたり、手放すことも、決してマイナスばかりではないことを、体験を通して知っていく。そんな心を耕す時期なのではないでしょうか。

liǔ zhōu èr yuè róng yè luò jìn ǒu tí
柳州二月榕叶落尽偶题

huàn qíng jī sī gòng qī qī
宦情羁思共凄凄，
chūn bàn rú qiū yì zhuǎn mí
春半如秋意转迷。
shān chéng guò yǔ bǎi huā jìn
山城过雨百花尽，
róng yè mǎn tíng yīng luàn tí
榕叶满庭莺乱啼

中国の面白い神話物語・伝奇物語(8)

顧傑

皆様、お久しぶりです。

前は唐伝奇の中の狐の物語をさせて頂きましたが、如何でしたか？

狐つながりで、今回は中国で最も有名な妖怪小説「聊斎志異」にある狐の物語「紅玉」を紹介したいと思います。

前回はお話したように、中国古来の小説において狐の妖怪は、多少いじわるやわがまはあるものの、「善良」で「聡明」なのが多くみられます。ある意味「古代中国人が好ましく思う女性像」ではないでしょうか。

~~~~~

今回のお話の舞台は、明時代の国の役所がおかれた都市・広平府です。明朝の建国者朱元璋が今の河北省邯鄲市一帯を、広平府と改名して作り上げた都市で、当時は、(明末の統計ですが)人口 26 万 4 千人をかぞえる大都市でしたが、辛亥革命のあと 1913 年に廃止されました。

また、主人公の身分「秀才」というのは、中国で長く行われていた官吏登用試験(科挙)の第一段階の合格者で、ある程度の尊敬はされるけれど、官吏になるにはまだ何回もの試験があるので、仕事はまだなく、家に財産がある場合を除き、貧乏暮らしをする人が多く、「貧秀才」という言葉があるくらいです。その上の郷試合格者が挙人で、身分が上がります。

それではお話を始めましょう。

~~~~~

広平府に馮の一家が、父親と息子〔以下馮生(馮家の子供)の意)と呼ぶ〕二人で住んでいた。馮父は 60 歳を過ぎており、妻に先立たれていた。馮生は秀才だが、仕事はなく、貧乏暮らしをしていたので、女性との付き合いも出来なかった。

ある日、馮生が庭で月を見ながら考え事をしていると、ごそそと隣の壁から音がしたので見ると、ひと

りの少女が壁越しにこちらを覗いている。月の光を受けた少女は、馮生が今まで会ったことがないような美少女だった。暫く見とれてから、馮生が壁に近づいて行くと、少女は逃げようとしなかった。名前を聞くと「紅玉」だと答えた。何日か、壁の中と外で会うことが続いて、お互いの感情が確認できた二人は密かに同じ部屋で夜を過ごすようになった。

半年もの間、月が昇ったら紅玉が馮生に会いに来て、日が昇る前に壁の向こうに消えていくので、誰にも

バレなかった。ある日、馮父は、夜起きた時に馮生の部屋から女の声が聞こえることに驚いて、馮生を呼び出し、かつてないほど激しく罵倒した。

「我が家はこんなに貧乏なのに、勉強もせず、このような淫蕩に耽るとは。こんなことが他人に知られたら、みんなはお前の人格を疑うぞ。知られなかったとしても、お前の寿命が減ってしまうだろう！」

また、紅玉には：

「女子として純潔を守らず、自分自身を汚しながら他人にも被害を及ぼしてしまっている！」

と厳しく叱ると、自分の部屋に戻ってしまった。

紅玉は泣きながら馮生に：

「御父上が仰ることはごもっともです。どうらやわたくしたちのご縁はここまでのようです」

馮生は驚いて懇願したが、紅玉は首を振るだけで、終いにはこう話した。

「馮生、お互いの両親の約束もないのですから、どのみち末永く続かないでしょう。近くに良い娘がいます。ぜひ娶ってやってください」

馮生が娶るにも金がないと話したら、紅玉は 40 両の銀を取り出して馮生に渡しながら言った。

「ここから 60 里のところには呉という村があります、



「紅玉」挿絵 百度百科より

そこの衛家の娘は今年 18 歳になっています。結納金の要求が高いのでまだよい夫が見つかりません。このお金を渡せば嫁にくれるでしょう」

紅玉は言い終わると去って行った。

翌日、冯生は車馬などを用意して呉の村に行ってみると、やはり紅玉の言う通りだった。衛家の人も、冯親子の名声を聞いていましたし、冯生の容貌にも大変満足したが、やはり金銭を要求してきた。冯生が紅玉からもらった銀を渡すと快諾してくれた。

衛家の娘は冯生と 2 年を過ごし、息子を一人儲けて「福児」と名付けた。

ある日、冯生夫婦は外出の途中で「宋」という人と出会った。この宋という人は地域で数々の悪行を重ね、トラブルは金で解決してきた人間だった。この宋が冯生の妻に一目惚れし、冯生が貧乏なのを知っていたので舎弟を連れて冯家へ乗り込んで、彼女を金で譲って欲しいと言って来た。冯生は怯えて何も言えなかったが、冯父が怒って宋の一味を追い返そうとして、二人とも返り討ちに会い、大怪我をして妻は連れ去られてしまった。後には福児だけが残された。

大怪我をした二人のうち、冯生は命を取り留めたが、歳を取っている冯父は死んでしまった。

冯生は傷が癒えてから、妻が最後まで宋に抵抗して殺されたと知り、宋の悪行を官府（役所）に訴え出たが無視され、復讐も考えたが、宋の舎弟が怖くて何も出来なかった。

ある日、見知らぬ人がやってきて、冯生の代わりに宋に復讐してやると約束したが、冯生は怖くて福児を連れて山の中に逃げ込んだ。すると翌日、宋と宋の家族の死体が見つかって、官府は「冯生がやったに違いない」と考え、冯生を捜し出して逮捕した。子供が大声で泣いているのに無視されて、福児はそのまま山奥に置き去りにされてしまった。

官府の長官が冯生を引き出して尋問をした：

「なぜお前は宋の一族を殺したのか？」

「冤罪です！ 宋が殺された日、私は昼から息子と一緒に山へ行きました。殺せるはずがありません」

「殺してないのなら、なぜ逃げようとした？」

冯生は返す言葉がなく、ただ泣きながら：

「私は死んでもいいが、役人は、なぜ泣いている息子を山に置き去りにした？」と長官に詰め寄ったが、長官は：

「お前は宋一族を殺した。たかが罪人の息子だ、どうということもないだろう」と答えた。

長官は冯生に刑を言い渡したが、冯生は最後まで罪を認めなかった。

この夜、長官が寝ようとして照明を消すと、何か鋭いものがベッドに刺さった音が聞こえた。

明かりを点けてみると、ナイフが枕の横に刺さっていた。長官は大声をあげて役人を呼び、下手人を捜させたが見つからなかった。翌日、長官は一睡もせず官府に行き、「どうせ宋の一族も死んだのだから」と考えて冯生を釈放した。

冯生が自宅に戻ってみると、庭には雑草が生い茂り、家の中も荒れ果てていて、食べるものも全くない状況だった。妻も父も息子もなくした今では生きる意味を失ってしまって、いっそ家族の後を追おうとした時、扉の向こうから子供の笑い声が聞こえた。扉を開けてみると、そこには福児を抱いた紅玉がいた。

疑問だらけの冯生を見て、紅玉は告白をした：

「私は隣家の娘ではなく狐の仙人です。貴方が逮捕された後山に入り、福児を保護して、役人に貴方の無実を信じさせてから戻りました」

冯生は喜んだが、一文無しの今では紅玉を養うこともできないと考えて、また悲しくなってきた。

それを見て紅玉は：

「ご安心ください。私には多少貯えがあります。貴方と福児だけなら何とかできるでしょう。貴方は勉強に専念してください」

その後、紅玉は福児を育てながら家事万端を切り盛りし、更に畑を買って農耕など男の仕事も一人でこなした。

次の郷試において冯生は見事挙人に合格した。家に戻ると、紅玉と福児が待っていた。紅玉は 36 歳と自称しているが、肌は 20 代のように若々しく、それを眺めた冯生は、しみじみと幸せを感じた。

~~~~~

紅玉の物語は以上です。今回も弱気な男性を助ける女性の物語になっていますね。現代人の価値観には合わない部分もありますが、ここでは昔の中国人の理想の女性像の一端が見えるのではないのでしょうか。

狐の物語はまだありますが、次はまた唐伝奇の物語に戻ろうと考えています。

では、また来月。

## 「秦皇島」をご存知ですか？……(7)

文と写真 吉光 清

渤海湾の海岸線に沿って「滨海大道」を南下する34番の路線バスは、「観鳥湿地」停留所の手前で「海港区」を越えて「北戴河区」に入っている。

“北戴河”の歴史は260号でも触れたとおり、北京や天津在住の外国人の避暑地、別荘地として、開発が始まったのは清朝時代の光緒24年(1898)に遡ることが出来る。1938年には別荘の数が700棟以上に達し、中央政府や企業などの保養所も200棟以上が建設されたという。共産党政府になって、多くの別荘、保養所が接収され、毛沢東主席を始めとする中国政府の要人たちが夏季休暇を過ごす別荘地や保養施設となった。特に、夏に集まった要人たちが秋以降の政局について議論し、重要な政治決定を行い、根回しをする場として知られるようになった(「北戴河会議」)。文化大革命後や胡錦濤総書記の時代には一時中断されたり、重要性が失われた時期もあったが、習近平政権下では非公式ながら、毎年開催されているという。中国富裕層の避暑地、各種団体の保養施設、観光客のリゾート地としても再発展している。

北戴河区の面積は155平方キロ、常住人口130,104人(2020年11月1日時点)で4つの区の中では最も狭く、人口も少ないことが、リゾート地としての特徴を表している。区内を流れる「戴河」の北に位置するので“北戴河”と呼んだのであろうが、現在の北戴河区は戴河の南側地域の一部も含んでいるという、少し首を傾げる実情もある。

### ■オリンピック公園から「海濱汽车站」へ

34番の路線バスが海岸線から離れるようになると、緑濃い森閑とした一帯になり、左側はオリンピック(記念)公園で各種のスポーツ施設がある。2008年の北京オリンピックでは、サッカー競技の一次リーグ会場の一つとして、新設された「秦皇島オリンピックサッカー場(海港区)」が使用された。決勝是北京市内のメイン会場で行われ、男子はアルゼンチン、女子はアメリカが金メダルを獲得した。

地図を見ると、オリンピック公園と道路を挟んだ地域の奥には「国際会议中心」、「国際酒店」、「宴会厅」があり、一般車の乗り入れは制限されている。

間もなく「联峰路」と交差するロータリー式の交差点に達するので、これを右折して联峰路に入ると市街地になる。しかし、中央分離帯の木々の背が高く、それぞれの敷地も広くて樹木が繁っているので、道路から建物の全容は見え難い。「宾馆」、「休养院」、「培训中心」、「公寓」、「中学」などの看板が見えた。联峰路に入って2つ目の「怪楼」という停留所は「怪楼奇园」の真ん前にあった。まるでお化け屋敷のような名称だが、奇抜な外観や構造を持つ建物や趣向を凝らした庭園を売りにしたテーマパークだという。

その次の停留所が「海濱汽车站」であり、联峰路と「海宁路」が交差する大きな交差点を、右折して直ぐに右側に入ったところにある。他の路線バスへの乗り継ぎが出来る。勿論、待合室を備えた建物があったが、いつもすぐに乗り継いでいたので、足を踏み入れたことは無い。建物前の広場が発着所で、次々に入って来るバスの路線番号を見て、停車したバスに乗ろうとする人々が行列を作る。此处と高鉄の「北戴河站」を往復する路線バス(22番)は特に重宝した。

### ■北戴河ちょっと歩き

「海濱汽车站」を背にした交差点の一角に、見上げるばかりの高さに人工の滝が造られ、水が盛大に流れ落ちて、暑い日差しの中で涼しさを演出していた。

周辺には、それなりに大きな商業ビルが立ち並び、人間も大勢歩いているのだが、道路幅がたっぷりあ



小路には「旅館」「客棧」が並んでいた(2016年10月撮影)





静かな公園の中に魯迅像があった（2016年10月撮影）



近づいてくるベンガルトラの迫力（2016年10月撮影）

り、空が広いので、リゾート地らしい、ゆったりとした空気が流れていた。

交差点から、联峰路を西へ進むと（ずっと先は「联峰山公園」）、観光客向けの施設は少なくなり、郊外らしい雰囲気になる。洒落た雰囲気の交差点があって、其処で、新郎新婦の服装をしたカップルをカメラマンが助手を伴って写真撮影している場面に出会った。記念写真か広告用なのかは分からなかった。

筆者は「中国交通銀行」発行の「银联カード（Union Pay）」を保有しているが、最初のカードを紛失して、再発行を受けるために、交差点付近にある筈の支店を探したことがあった。「中国交通銀行」と書いたメモを準備し、道を掃除中の阿姨に「请问，我想去・・・」と言いながらメモを見せる方法を探したが、すんなり指差しで教えてもらえて、とても嬉しかった記憶がある。その裏手の通りを歩いたら、商店が軒を連ね、傾斜した石畳の小路の奥には庶民が宿泊する質素な造りの「旅館」、「民宿」、「客棧」があった。風情を感じて写真を撮った。（前頁の写真参照）。

海宁路に出て少し南（海の方）に歩いたら「魯迅公園」があった。シーズンオフのせいか、人っ気が無くひっそりとしていた。（上の写真参照）

### ■「秦皇岛野生动物園」の醍醐味

北戴河区を代表する観光スポットとして紹介を忘れてならないのは「秦皇岛野生动物園」である。日本では「サファリ」と呼ばれる、動物を放し飼いにしている見物させる動物園である。此処は334ヘクタールという中国最大の面積を誇る動物園ということである。とある観光会社の「秦皇岛人気観光スポットランキング」では第2位であった。

「观鸟湿地」と道路を隔てて反対側に広がる広大な

森林地帯の中にある。したがって、路線バスで来て、園内を走る小さな軌道列車を利用することも可能であるが、時間の制約が大きくなり、自分たちのペースで見て回ることが出来なくなる。やはり、車で園内に入り、見たい動物をじっくり観察し、通常は近づくことが出来ない動物を間近に見て楽しむことがサファリパークの醍醐味であろう。そういう訳で、同僚たちと一緒にマイクロバスで出掛けることにした。

園内には「草食区」、「猛兽区」、「笼养区（鳥類）」の他に、檻や柵に入れられた動物たち（猿、象、サイ、ワニ、駝鳥など）を見物するコーナーが散在しており、数カ所の駐車場に車を停めて徒歩で見物するようになっている。持ち込んだ食物を動物にエサとして与えている人々がいたが日本では見られない光景だった。「草食区」と「猛兽区」内には駐車場は無く、車を降りて歩くことは出来ない。

「猛兽区」では熊、ライオン、トラ、オオカミを見ることが出来た。ヒグマは愛嬌か威嚇か分からないが、車に向かって盛んに後ろ足で立ち上がっていた。ライオンは残念ながら遠くで群れて休息していた。灰色オオカミは数匹がじゃれ合いながら車のすぐ近くまでやって来た。

圧巻は車の傍に近づいてきたベンガルトラで、ライオンに勝る3メートル余の身長、300キロを超えるだろう体重の巨体はさすがに迫力があつた。（上の写真参照）。これだけでも来た甲斐があつたと思った。

他に、アフリカの自然環境を再現した「非洲区」が作られており、現在の中国政府とアフリカ諸国の親密な関係を示して象徴的であつた。

次回から、「海浜汽車站」からの路線バスを利用した観光案内を続けたい。（続く）

1992年に「小学館」から発行された、北京・商務印書館との共同編集による「中日辞典」には、語の説明の中に【日:中】という記号がときどき出てきます。

この記号は、漢字で対応する日本語がある場合、その意味・用法の違いを補充説明するというものです。写真の【挨拶 āizǎn】の語を筆頭に全部で292個の語に付いています。中国語学習者にとって役に立ちそうなものをピックアップしてみました。

āizǎn【挨拶】 込み合う。▶初期の白話に多く見られる語。āizǎとも発音する。  
【日:中】日本語の「挨拶」には「应酬話 yìngchouhuà」「喧 hánxuān」「问候 wèn hòu」「打招呼 dǎ zhāohu」などが相当する。



ている  
中国語の“安静”は「音がなく静か」「環境が穏やか」「心が落ち着いている」などの意味に用いられる。たとえば、“病人需要安静”は主に「病人の精神状態や環境を静かにする。激しい運動をしない」の意で、「病人が体を動かさずに安静に寝ている」場合は“静卧 jìngwò”を用いる。“病人需要静卧”（病人は絶対安静にしなければならない）。

「安静：あんせい」は病気の人や大けがをした人に対して使う語ですが、“安静”は広範囲なんですね。

【安心 ān xīn】 1. (気持ちが) 落ち着く。(気持ちを) 落ち着ける。安心工作 ān xīn gōngzuò/腰をすえて仕事をする。2. …をたくらむ。悪たくみがある。  
nǐ bù tōng zhī dà jiā jiù dān dú xíng dòng ān de shì shén me xīn  
你不通知大家就单独行动, 安的是什么心? 君はだれにも知らせずに単独行動をとったが、いったいどういう了見だ。

日本語の「安心する」は普通“放心 fàngxīn”を用いる。

“安的是什么心?”が、「何をたくらんでいるんだ」とは意外ですね。

【暗算 àn suàn】 1. (人を殺害したり陥れようと思って) ひそかにたくらむ。陰謀をたくらむ

“算”は「もくろむ」の意。日本語の「暗算：あんざん」は「心算 xīn suàn」という。

「私は暗算が得意です」なんて自己紹介するとき、「暗算」を使うととんでもないことになりますね。

【暴露 bàolù】 暴露する。明るみに出る。露見する

“暴露”は隠された事柄や思想を「暴露する」以外に、秘密が自然に「露見する」時や、自分の秘密を「さ yīn mǎn shì bù néng chí jiǔ de zǒng yǒu rā chū sù」時にも用いる。隐瞒是不能持久的, 总有一天暴露出来. 隠蔽しようとしても長続きしないものだ. 必ず露見する日が来る. 他能够全部暴露自己 tā néng gòu quán bù bàolù zì jǐ de sī xiǎng hái shì yí ge hěn dà de jìn bù 的思想, 还是一个很大的进步. 彼が自分の考えをすべて明らかにできるようになったのは大きな進歩だ。

「暴露：ばくろ」は他人の秘密や悪事などを悪意をもって公表するという悪いイメージを持つ語ですが、“暴露”はそうでもなさそうですね。

【爱人 àiren】 1. 夫または妻。配偶者 2. 恋人  
“爱人”には日本語の「愛人：あいじん」の意味はなく、愛人は中国語では“情夫 qíngfū”“情妇 qíngfù”“第三者 dìsānzhě”などを用いる。ただし、“爱人”は新中国成立後に定着した言い方なので、台湾・香港や在外中国人社会では“太太 tàitai”（奥さん），“内人 nèiren”（家内），“先生 xiānsheng”（主人）などが使われる。

この語は、日中同形異義語の代表格。知らないと誤解が生じます。ちなみに、語句の説明で太字になっている部分は、この中日辞典の表記に準じていて、重要度が高いことを示しているのだと思います。

【安定 āndìng】 1. 安定する。落ち着く 2. 安定させる

中国語の“安定”は生活・時局・人心などを対象とし、物体を安定させる場合は、“穩定 wěndìng”を用いることが多い。zhè zhāng zhuō zi bù wěndìng zài zhuō zi dī xià diàn 这张桌子不稳定, 在桌子底下垫 zhāng bào zhǐ ba 张报纸吧この机は不安定なので下に新聞紙をつめよう。

対象によって語を使い分ける、覚えるのは大変ですが努力しましょう。

【安静 ānjìng】 1. 静かである (物音がしない)。静かにする (黙る) 2. 穏やかである 3. 落ち着い

【**本当 bǐndāng/běndāng**】 **běndāng**: もともと…  
(す) べきである。这件是**本当**严肃处理, **念他**是  
chūfàn jiù miǎnfá le  
初犯, 就免罚了この件は本来はきびしく処理しなけ  
ればならないが、彼は初犯なので許してやろう。

**běndāng**: 〈俗〉正直な。真面目な。他是**个**本**当**的  
zhuāngjiārén/  
庄稼人 / 彼は正直な農民だ。

日本語の「本当：ほんとう」は“真 zhēn”“真正 zhēnzhèng”“真的 zhēnde”などに相当する。

《新明解国語辞典》によると、「本当」は「本途：ほんとう」の変化ということがあります。「本途」の意味は「本来の筋道」、これを見ると、“本当”とはもともと  
同じ意味だったんでしょね。〈俗〉は「俗語」のこと  
です。

【**表现 biǎoxiàn**】 1. 表現する。表れる。表す 2.  
表れ。態度 3. (貶) (自分を) ひけらかす。他有一个  
quēdiǎn jiù shì zài qǔ dé chéngjì shí chángcháng ài biǎoxiàn zì jǐ /  
缺点, 就是在取得成绩时, 常常爱表现自己/彼に  
は一つの欠点がある。それは彼が成績を上げたとき、  
いつも得意になって自分をひけらかすことだ。〈貶〉  
は「けなし言葉」のことです。

中国語の“表现”は「…を表現する」「…を示す」の  
意味に用いられるが、目的語を伴わずに、「言動」「態  
度」などの内容を示すことがある。今天我**在**会议**上**  
biǎoxiàn de bùhǎo /  
表现得不好/今日、私は会議での態度がよくなかつ  
tā zhè ge xuéshēng zuì jìn biǎoxiàn de hěn hǎo /  
了这个学生最近表现得很好/この学生は最近素行  
がよくなった

【**病院 bìngyuàn**】 病院

主として専門病院をさし、次の例のように熟語化  
する場合に用いる。日本語の「病院：びょういん」は  
普通は“医院 yīyuàn”という。精神病院 jīngshén  
bìngyuàn/精神病院。传染病院 chuánrǎnbìngyuàn/伝  
染病院。

中国語の“医院”を調べると、特定の病気を専門に  
治療する“病院”と区別するとあります。しかし、歯科  
医院や耳鼻咽喉科医院を、日中辞典で調べると“医  
院”が使われているので、“病院”を使う場面は少なそ  
うです。ちなみに、日本語にも「医院：いいん」とい  
う語がありますが、「病院」との違いは何なのでしょう  
う。医療法で、病床数 20 床以上の入院施設をもつも  
のを「病院」、無床もしくは病床数 19 以下の入院施  
設をもつものを「診療所」というのだそうです。「医

院」は、医療法で規定されている語ではなく、医師の  
個人的経営による、病院より小規模の施設とされて  
います。

【**材料 cáiliào**】 1. 材料。原料 2. (著作や参考と  
なる) 資料 3. 〈喩〉器。素質

“材料 cáiliào”は広く物・事柄・人を作るもとなる  
ものをさし、日本語の「材料：ざいりょう」より応用  
範囲が広い。建造大楼的材料 jiàn zào dà lóu de cáiliào/  
ビルの建築資材。会议材料 huì yì cáiliào/会議の資料。

攻击的好材料 gōngjī de hǎo cáiliào/攻撃する好材料。  
tā shì dǎngjīng lǐ de cáiliào  
他是当经理的材料/彼は社長になる素質がある。

【**采取 cǎiqǔ**】 (方針・手段・態度などを) とる。  
採用する

中国語の“采取 cǎiqǔ”は主に方針・政策・手段・態  
度・形式などを選択し採用することであり、日本語の  
「採取：さいしゅ」には“取 qǔ”“采 cǎi”“提取 tíqǔ”な  
どが相当する。取指纹 qǔ zhǐwén/指紋を採取する。

采标本 cǎi biāoběn/標本を採取する。从大豆提取  
cóng dàdòu tí qǔ  
豆油/大豆から油を採取する。

中国語の“采取”の対象は抽象的なもの、日本語の  
「採取」の対象は具体的なものということですね。

【**操作 cāozuò**】 (機械などの) 操作 (を) する

中国語の“操作 cāozuò”は一定の順序や技術に基づ  
き機器や道具を「操作する」場合に用いられ、不正な  
手段を用い人や事柄を「操作する」時には“操纵  
cāozòng”を用いねばならない。操纵市场 cāozòng  
shìchǎng/市場(しじょう)を操作する。操纵物价  
cāozòng wùjià/物価を操作する。

“操纵”も日中同形語ですね。日本語の「操縦：そう  
じゅう」は、自分の思う通りに機械や人を動かすこと  
で、市場や物価を対象とするときは「操縦する」を使  
わず、「操作する」を使いますね。対象によって用法  
が異なるのは本当に厄介です。

今回はここまでにしておきましょう。私は中国語  
の文章を書くとき、まず日本語の文章を作って、それ  
を少しずつ翻訳していくかたちをとっていますが、  
日中同形語があると一応辞書を開いて、意味や用法  
に違いがないかを確認するようにしています。そん  
なとき、この **日：中** で示される補充説明はとても  
ありがたいものです。

成都是四川省の省都ですが、その名前は当地の検索サイト「百度文庫」に拠りますと BC5 世紀に城壁と堀を構築した古蜀国の開明王朝まで遡り中国最長 2300 年余りの歴史を持つそうで、名前の由来は「周太王は岐山まで移して 1 年で村落が成り 3 年で都が成った」だそうです。また成都市街に有った、黄河文明と並んで揚子江上流文明の遺跡として知られる三星堆遺跡（金沙遺跡）の時代を含めると、3200 年の歴史が有ります。秦時代には天然資源の豊富な地域と言う意味で「天府」、漢時代には紡織業が発達して「錦城」とも称され、其の名前が今も使われています。

私が四川に住み着いた 2000 年時点では、大昔の城壁に当たる直径約 6 km の一環路（成都市を囲む自動車道の第一環状線で全長 19km）内側に人が集中していて外側には農地が広がっていました。しかし其の後 20 年間に急速に開発発展して今では直径約 9 km の二環路（全長 28km）はおろか直径約 17km の三環路（全長 51km）の外側まで、農地が消えてビルが立ち並び多くの人に住むようになりました。其の開発発展の速さに驚いていますが、日々の生活の変化、特に交通事情と買物の支払い方法が大きく変わりましたのでご紹介します。

### 1. 交通事情

2000 年から 2010 年代は市内市街を循環する路線バス<sup>注</sup>が交通の便を一手に担う全盛時代で“城市之舟 City Boa”の愛称で呼ばれていました。料金は安く 2000 年代は 1 円で、その後 2 元になりましたが先払いカードを使うと一定時間内の乗り換えが無料なので実質 1 元前後です。当地の路線バスを使う時に注意しなければならないのは、同じ名前のバス停でも路線によって場所が離れていたり、同じ路線でも上りと下りによってバス停の名前が違ったり場所が離れているケースが有る（例えば 200m 位とか角を曲がっていて見通せないとか）事です。

2010 年代に入って街並みが郊外へ大きく拡がると共に自家用車が爆発的に増えて道路に溢れ、路線バスの運行に支障を与え始めました。と同時に地下鉄が、市内

は網状に、郊外へは放射状に急速に整備され、路線バスが地下鉄の隙間を埋めるように旧市街から新市街へ一部再配置されて旧市街のバスは路線変更されたり数が減り、一昨年頃から不便を感じるようになりました。また保安維持のために警備員が散発的に路線バスに乗り込むようになっています。

地下鉄は現在 6 路線走り郊外に在る空港や主要なターミナル駅（鉄道と長距離バス）を繋いでいますので其れらに行くには大変便利になり、更に今後 8 路線が新設・延長されようとしています。朝夕の通勤時間帯は日本と同じで混

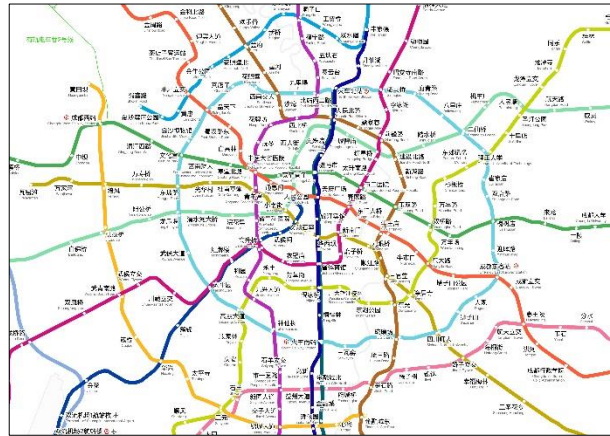
み合いますが、其の時間帯を外すと殆ど座れます。地下鉄に乗る時は持ち物と身を X 線検査され、車内を警備員が巡回しています。料金は距離に拠って 3~5 元位で、先払いカードを使うと 10% 割引されます。

### 2. 買物の支払い方法

市場で野菜を買ったり、病院で診察検査を受ける時等にスマートフォン上で QR コードを識別して支払う方法が数年前から急速に普及して現金を使う人が随分減りました。私は現金派でしたが、今年から健康コードを使う事が切っ掛けになってスマートフォン上でのキャッシュレス決済とオンライン送金を使うようになり、今では其の便利さを実感しています。

一方、成都では銀行の顧客窓口が次々に無人機械化されていて、口座に有る外国為替の両替も無人機械化されました。銀行支店の数は未だ減っていませんが、日本では預貸率低下や低金利やインターネットバンキング普及のために銀行支店や ATM を減らしていますので、何れ成都でも支店の数が減ると思われます。実際、四姑娘山麓の田舎町では既に一つの銀行支店と ATM 2 台が撤去され、一つだけ残っている銀行支店も稼働率が落ちて行員が居るのは朝方 1~2 時間位だけになり遠からず閉鎖されると聞いています。

<sup>注</sup> 路線バスの当地名は「成都公交车」：車両 10357 台、路線 786、旅客輸送量延べ 15 億人（2018 年）。



成都の地下鉄網(中心部)

(ウィキペディアから)

拙著『エスペラント分断された世界を繋ぐ HOMARANISMO』が5月末に発売されると、まずエスペランティストの堀泰雄さんが、エスペラント界の友人知人に「この本は面白い、ぜひ皆さん読んでください」とA4版で2頁にわたる文章をメールで発信してくれた。

堀さんは群馬県前橋市在住で、福島原発事故後の現地の状況などをエスペラントで世界に発信していて、日本在住のエスペランティストとして世界のエスペラント界で最も有名な人だと言っている。3年前だったか、リスボンで開かれたエスペラント世界大会に参加した折り、最終日〈国際芸術の夕べ〉のステージで、現地の女性たちと一緒にポルトガルのユニークな踊りの場があった際、たまたま会場の前列にいた私も引っ張りだされて踊っていたら、そこに堀さんもいて「大類さん、若いね」と冷やかされた。

ともかく堀さんのメールは影響力があり、たちまちと言っていいほどエスペラント界の人たちが書店やアマゾンで拙著を入手された。私のところにも何人かがメールをくれた。こちらはエスペラントの語学力はまるでないので、エスペランティストと名乗るほど心臓は強くないが、ベテランのエスペランティストからもそれなりに評価されたので一安心した。

大手の書店でも置いてくれたが、ほとんどが言語学コーナーに置かれた。私は、エスペラントという言葉について書いたわけではなく、エスペラントの内在思想である人類人主義について書いたもので、ぜひ人文コーナーに置いてほしいところなのだ。

東京・神田神保町の老舗の書店、東京堂書店では私の意を汲んで、二階にある言語学コーナーだけでなく、一階の人文コーナーにも置いてくれたが、他の有名書店ではほとんど言語学コーナーのところに置いてある。いちいち書店に言えないので仕方がないかと思っている。

日本と中国とのエスペラント交流についても書いていることもあり、神保町の有名な中国専門書店の内山書店と東方書店は平積みしてくれている。また新宿にあるユニークな書店、模索舎は10冊入荷し、アナキズム関係が多いところに平積みされている。

書評は大手の新聞では、まず東京新聞に出た。小さい記事だが「1987年に発表された世界共通語「エスペラント」が今こそ必要だと、ベテランジャーナリストが訴える」と記されていた。ベテランだって？と、まだまだ若造だと思っているので恥ずかしいところだ。

また読売新聞も8月22日付朝刊の読書欄で取り上げてくれた。そこでは瀧澤弘和（経済学者で中央大学教授）さんが、「地球環境問題など、世界が共通課題の課題に向かっている今こそ、エスペラント普及のチャンスかもしれない。世界のエスペランティストたちが培ってきた絆が希望を示している」と書いてくれた。

日中友好協会など日中関係団体のいくつかの機関紙でも小さい記事だが紹介してくれ、また中野良男さん編集のメール通信〈ヒロシマへヒロシマから〉や、横井幸夫さんの「中国業務通讯」も全面で拙著の紹介記事を書いてくれた。

とりわけ、メールマガジン「オルタ広場」(6月20日掲載)で初岡昌一郎(姫路独協大学名誉教授)さんが、とてもいい書評を書いてくれた。面映ゆいが一部紹介しよう。

——私が知る限り、本書は日本で出版されたエスペラント思想紹介書として最も優れたものだ。何よりも明快でだれにも分かりやすく解説されている。それは筆者がこの思想を自家薬籠中のモノとしているだけでなく、フリーのジャーナリストとしての経験を生かした、並々ならぬコミュニケーション能力と優れた文章力によるところが大きい——

嬉しいかぎりである。

# 満州走馬灯 (1)

和田 宏

1932年3月1日から1945年8月18日まで13年5か月間にわたり中国の東北部に存在した『満州国』に関連して、思いつくままに書いてみた。

## <君死にたまふことなかれ>

生涯に5万首の短歌を作ったといわれる情熱の歌人・与謝野晶子(1878~1942)は、1904年(明治37年)9月、『明星』誌に“旅順口包圍軍の中に在る弟を嘆きて”と副題をつけて、『君死にたまふこと勿れ』という有名な七五調の新体詩を発表した(以下抜粋)。

ああ弟よ、君を泣く、  
君死にたまふこと勿れ、  
末に生れし君なれば、・・・  
親は刃やいばをにぎらせて  
人を殺せとをしへしや、  
(中略)  
すめらみことは、戦ひに  
おほみづからは出でまさね、  
かたみに人の血を流し、  
獸けものの道に死ねよとは、  
死ぬるを人のほまれとは、  
大みこころの深ければ  
もとよりいかで思おぼされむ。  
(以下略)

この詩の趣旨は、日露戦争で満州に出陣させられた弟・鳳ほう籌ちゆう三郎ざぶろうの無事を祈り、自身は出陣しない天皇が人の殺し合いを名誉だと思ふのだろうか?と疑問を投げ掛けたもの。当時24歳の籌三郎は結婚直後であり、妻・せいせいは身籠っていた。

ところが文芸評論家の大町桂月が晶子は乱臣・賊子であると酷く罵った。晶子は、何でも忠君愛国や教育勅語などを引いて論ずるのは却って危険ではないか?弟が戦死しないよう願う姉の気持ちのどこがおかしいのかと反論した。

これより11年程前、日清戦争後の三国干渉に際して、当時の世論に迎合し、“ロシアをやっつけろー!”と拳を振りあげた樋口一葉(当時22歳)と、このような反戦の詩を作った晶子(当時26歳)と

は大違いである。私は、晶子の肖像が紙幣に採用されない理由は、鉄幹の家に勝手に乗り込んで“押し掛け女房”になり、時流に逆らって政権・政策を批判するような“危険思想”の持ち主だったからではないかと推量する(笑)。

籌三郎は日露戦争の激戦地の203高地に赴いた。当時の日本の軍人は殆どの方が読み書きは出来ず、読み書きの出来た籌三郎は、鉄砲の代わりに筆を握って第三軍司令官・乃木希典(1849~1912)の傍で書記役を務めていた。

乃木から手紙を貰ったこともある私の祖母の父・功刀栄植陸軍少佐(1844~1914)は、乃木の作戦参謀として常時付き従っていた。つまり、乃木、晶子の弟、それに私の曾祖父の3人は揃って203高地から旅順港を見下ろしていたことになる訳だ。

乃木は明治天皇に引き立てられて学習院院長まで務めたが明治天皇が亡くなり、大葬礼が行われた1912年(大正元年)の9月13日、弔砲の轟く中、妻と共に殉死した。時代錯誤の殉死に世間は驚いた。乃木の辞世の短歌は

うつし世を神さりましたし大君の  
みあとしたひて我はゆくなり

妻静子も

出いでましてかへります日ひのなしときき  
けふの御幸に逢ふそかなしき

と詠んでいる。

自死の理由は、西南戦争で軍旗(天皇の錦の御旗)を薩摩軍に奪われ、日露戦争では1万5000人を戦死させた責任を取ったとされている。乃木は以前から自死を考えていたが、明治天皇から自分が死んだ後にせよと諭されていたのである。

自死と言えば、第2次世界大戦の敗戦を聞いて当時満州映画協会理事長だった甘粕正彦は、

大ばくち 身ぐるみ脱いで すってんてん

という辞世の川柳を残し、1945年8月20日に服毒自殺した。甘粕は、1923年9月1日に発生した関東大震災直後の混乱に紛れてアナキストの大杉栄と内縁の妻・伊藤野枝、それに6歳の甥の3人を扼殺した張本人である。



歳末助け合いで短冊を書くと謝野晶子(49)と柳原白蓮(42)  
 <1927年12月15日>

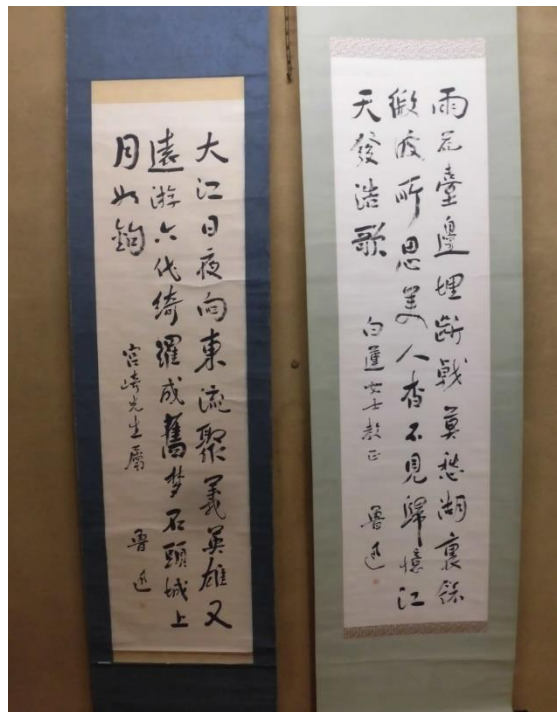
満映のスター・李香蘭は彼の印象を、“ふっきれた感じで魅力のある人だった。無口で厳格で周囲から恐れられていたが、本当はよく気のつく優しい人だった。ユーモアを解し、いたずらっ子のような一面もあった。”と好意的に述べている。

#### <晶子と白蓮>

1925年(大正14年)3月22日午前9時30分に、アジアで最初のラジオ放送が社団法人東京放送局(NHKの前身)によって発信された。与謝野晶子と柳原白蓮(本名:宮崎燐子1885~1967)の二人が1927年末に歳末助け合いで頒布する短冊を書いている写真がある。短歌を書いた短冊や色紙を売って、その売り上げを恵まれない人に寄付するための慈善事業。NHKの歳末助け合い運動の先駆けとなったものだ。

私は昔、神田の古本屋街で晶子直筆の短歌の色紙を発見し買おうかなと思案したが、10万円と書いてあったので諦めた。その替わりと言っちゃーなんだが、白蓮自筆の歌が書いてある掛け軸を白蓮の長女・宮崎露蓼さんから戴いた。

大正天皇のいここに当たる白蓮は有夫でありながら、当時東大生でのちに弁護士になった社会運動家の宮崎龍介と1921年駆け落ち結婚。新聞紙上に出奔した理由を堂々と発表するなど、“白蓮事件”と言われて世間を騒がせた。7歳年下の龍介との結婚は白蓮にとって3度目だったが、初めて本当の幸せを掴んだと述べている。龍介の父親・宮崎滔天は、清朝からお尋ね者として追われていた辛



魯迅から贈られた七語絶句2首 1931年

亥革命のリーダー孫文・黄興らを目白の自宅に匿って支援したが、龍介・白蓮夫妻も妓楼から逃げて来た娼婦や生活苦の女性らを受け入れ隠れ家として、自宅に住ませた。龍介・白蓮夫妻は1931年4月、南京を訪ね、国民政府が開催した国民会議を傍聴し、蒋介石や張学良、宋子文らとも面会している。帰途の上海では6月14日に魯迅と会い、彼が龍介と白蓮の為に揮毫した七言絶句の掛け軸2幅を貰った。

歌人でもあった白蓮は1934年(昭和9年)2月短歌結社『ことたま』を創始し、同人誌『ことたま』を発刊した。現在は白蓮・龍介の間の長女・宮崎露蓼さん(95)が引き継ぎ主宰しており、私は同人誌の校正を担当している。同人誌は戦時中2~3年間を除いて今日まで毎月発刊されている。

#### <満洲某重大事件>

1928年6月4日の午前5時半、奉天(現瀋陽)駅の北1km、京奉線と満鉄線が交差するガードの下で爆発が起こり、通過中の京奉線の列車4台が爆破され、乗っていた軍閥・張作霖が爆死するという“満洲某重大事件”が起きた。この張作霖爆殺事件の爆発音を丁度、近くの奉天ヤマトホテル(現・遼寧賓館)に宿泊していた与謝野寛(1873~1935)・晶子の夫妻が聞いたという事実が、彼らの書いた本

『満蒙遊記 附満蒙の歌』に載っている。その時の状況を晶子は、“・・・ホテルは深夜にも汽車の出入りする汽笛や響きのために殆ど眠れなかった。翌朝私は早く起きて東京の子供に送る手紙を書いてみると、へんな音が幽かに聞こえた。顔を洗ってゐる良人も其れを聞いた。二人は唯だ騒音の多い所へ来たかと思つてみた。・・・”と書いている。張作霖が車中で遊んでいて焼け焦げた紙牌を、張作霖と親交があった日本人が爆発現場から拾つて来て、晶子夫妻に見せている。二人が詠んだ短歌。

行き逢へる張督軍の変なども

沙ぼこりすと見て過ぐるのみ（寛作）

その半焦げたる汽車に將軍の

もて遊びたる紙牌の白し（晶子作）

この某重大事件も、寛にすれば事件現場を通り過ぎた際の砂ぼこり程度と捉えているし、晶子は爆破のため半分焼け焦げた車両と張作霖が遊んでいた中国のゲーム紙牌が白かったと述べている。事件は、誰が何の為に起こしたのか謎のままだったが、漸く終戦後になって、事件の首謀者は関東軍高級参謀の河本大作大佐であり、日露戦争では日本軍にとって役立った張作霖がその後だんだん邪魔になって来たため、取り除いたのだと判明した。

寛・晶子夫妻の著書『満蒙遊記』は、寛が55歳、晶子が49歳の時に1928年5月から6月にかけての40日間、満鉄本社の招待で旧満州やモンゴルを訪問した際の旅行記で、実に詳しく書かれており、彼らが見た当時の町や中国人（支那人と言っている。）、苦力などの様子、それに空中に浮遊する柳絮のことまで手に取る様に判る。二人の描写は的確であり、毎日克明に記録を書き綴り、道すがら次々に短歌を作った与謝野夫妻は、男女6人ずつ計12人の子どもをもうけただけあって、大変エネルギーギッシュである（笑）。

さて、この『満蒙遊記』を読んで私がびっくりしたことがある。与謝野夫妻は、1928年5月6日、神戸港から大連へ向う貨客船「亜米利加丸」に乗船したのだが、神戸港には、“・・・京都から親戚



左端の白髪の女性が小林真理子さん。右端は筆者

の小林政治君が見送りに来ていた・・・”と書いてあり、この小林政治（1877～1956）こそ、私が所属している短歌結社『ことたま』の会員池田真理子さんの祖父に当たる人である。真理子さんの叔母・小林迪子が晶子の長男・光の妻である。

小林政治は雅号を小林天眠と言ひ、与謝野晶子ら当時の関西の文学界・文学人たちを金銭的に支援した大実業家である。余談ながら、池田真理子さんによると、真理子さんが小学5～6年生の頃、晶子がよく自宅に遊びに来たのだが、晶子の性格は身勝手に、自分さえ良ければ良いと言う“自分だけの人”だったそうで、独り善がりの私に似ているように思えた（笑）。



右から与謝野晶子、小林天眠、川勝堅一、与謝野鉄幹  
(1926年)



お二人の読者から、それぞれ随想をご投稿いただきましたのでご紹介します。

~~~~~

■「石」に関わる発見と反省 後藤 芳昭

『我が心は石にあらず』という小説を学生時代に読みました。

全共闘運動の渦中、ノンポリだった私は、京大の漢文学の若手教授高橋和己の作品のファンで『憂鬱なる党派』、『邪宗門』などの作品を愛読しました。

以来、この作品タイトルの意味は、自分の信念は、石のように非情なものではないものだとして解釈し続けてきました。

しかし、昨年六月のNHKカルチャーラジオ『漢詩を読む』で、西晋・賈充^{かじゅう}の五言古詩・李夫人との連句の中で、「大義同膠漆 匪石心不移」（夫婦の愛は膠や漆と同じ、石のように転がらず、心は変わらない）の説明に、「石」の解釈の間違いに気づきました。

「匪石」の「石」は「非情な石」ではなく「転がる石」、「匪石」はその否定形なのだ。

「詩経」に「我が心石に匪ず、転がすべからず」とあり、その意は、妥協をせず意思を通すことに喩えるのだ。

ああ半世紀にわたる勘違いであったと発見！

人名で石がつくのは、蒋介石。変わった名前です。硬い人物だと思っていました。しかし、上記の「石」発見で名付け親の子に期待する意に共感。

では、「介」は？ 石を強調する副詞的な言葉と推測しましたが、「漢字 形義演義辞典」（四川辞書出版社）で調べると甲骨文から由来を解き明かし人が鎧を身に着けている様子であると。そこから堅固の意に引用されます。范仲淹「心焉介于石（心比石还坚固）：心は石よりもっと堅い」の使用例が紹介されていました。そうすると介の意味合いが俄然強くなり、心（気持）を石以上に堅くもって生きて欲しいとなります。

そういえば、米国のフォークシンガー、ボブ・デ

イランも「like a rolling stone」と歌っていました。

いずれにしても「石」を非情とする僕の解釈は全く独りよがりであったと認めざるを得ない梅雨寒の反省となりました。

~~~~~

### ■ヘチマとわたし 趙 迪

先日、友達がヘチマを2本分けてくれました。

私にとってのヘチマは、たわしではなく、夏の食卓に必須の食材です。さらにいえば、食べるヘチマよりヘチマ棚の印象の方が記憶に鮮明です。



私の実家（河南省・駐馬店市）には小さな庭がありました。春になると、切り盛り上手な母はその庭に必ず5～6粒のヘチマの種を蒔きます。母曰く、「食費の節約もできるし、パラソルもできる！」。当時の私には「節約」よりも「パラソル」の響きにドキドキ、ワクワクしたものです。

母が種を蒔いた後は、水遣りが私の日課になります。芽が出るまでの間がとて待ち遠しくて、「早く芽が出る、早く芽が出る！」と毎日お祈りしたものです。

芽が出た後、ヘチマはあっという間に成長するので、急いで棚を作らなければなりません。ここは父の出番。それほど複雑な仕事ではないので、縦と横が2、3メートル、高さ2メートルの箱型の棚が1日で出来上がります。

棚ができると、私は自分の仕事を1つ増やします。成長するヘチマの蔓を手で棚の方に導いてやるのです。ヘチマの蔓は1日に数センチのスピードで伸びていきます。その様子を見て、母は毎度のように「子供みたいに成長が早いわね！」と感激していたのを憶えています。ヘチマが開花時期に入ると、さらに仕事を増やします。それは、花の数を数えること。花1つにつき、ヘチマが1本収穫できることを意味するからです。

ヘチマはとても生産効率の高い野菜で毎日収穫

ができます。この、収穫の仕事も大好きな仕事でした。それはまるで宝探し！しかし、ヘチマの食べごろはまだ若いうちに限られ、収穫に適した時期を1日でも過ぎるととたんに食感が落ちてしまいます。うっかり葉の間に隠れたヘチマを見落として、食べごろを過ぎてしまうこともあります。そんなとき、母は「このまま育てて、たわしにしよう」と淡々としていたものでした。

ヘチマが採れるシーズン中は、当然のように毎日ヘチマ料理が食卓に出ます。「ヘチマの卵炒め」、「ヘチマのニンニク風味炒め」、「ヘチマのピリ辛炒め」、「ヘチマとトマトのスープ」などなど。母のレシピでヘチマは千変万化！おかげで毎日食べても飽きることがありませんでした。

それでも時には食べきれません。そんな時は、母が近所の家にお裾分けして回ります。訪問先の家々で人々がヘチマのレシピについて賑やかにアイデア交換していたのも懐かしい思い出です。

こんな出来事の間にも、ヘチマの蔓はびっしり棚の天井部分に巻き付き、大きな四角い「パラソル」が出来上がっています。これこそ私が待ち望んでいたもの！ちょうど毎年今頃、夏休みの時期です。

真夏の日差しを遮るヘチマ棚の下に、母は椅子とテーブルを置いてくれます。そこに座ると、真夏の正午の暑さも耐えられます。夏休みの間は、ここが実家のダイニングルームになります。友達が遊びに来たときは、ここで様々なゲームをして遊んだり、夏休みの宿題をやったりしました。

しかし何よりの楽しみは、ここに座って棚を見上げて木漏れ日を受け、緑の葉の隙間から見え隠れする青い空を楽しんだり、黄色いヘチマの花、花粉に集まる蜂などを見ながら空想に耽ること。子供のころ世界はとてもカラフルでした。全ての物事が生き生きと感じられ、空も真っ青で、空気は澄み渡り、純粹でした。

故郷を離れてあっという間に何十年も経ちました。友人と話をしていて、時々「故郷で一番の思い出は何？」という話題が出ます。私には、盛夏の季節に家族全員でヘチマ棚の下でスイカを食べながら世間話に興じる情景が臉に浮かびます。

今、我が家ではヘチマではなくキウイフルーツ

2本を庭で育てています。あのヘチマ棚のようにはならないと思いますが、すくすくと育ててほしいと願っています。そしてわが子の夏休みの思い出になってくれることも…。

◎上記講演・講習会は、鈴木先生のご好意により、わんりいの会員は参加費が半額になります。会場へは、新宿から地下鉄1本で行けます。ぜひご参加ください。

### 》》》》 中国語学習は楽しい～！ 《《《《

#### 《講演会》

- ①陳淑梅老師(NHK テレビ中国語講師)と語ろう  
9月20日(月・祝) 14:00~16:00  
第一部:「青春の天津」  
第二部:「楽しく中国(語)を語ろう」

#### 《中国語講習会》

- ②中国語学習者のための発音矯正教室  
(母音、子音、声調)  
9月23日(木・祝) 13:30~16:30  
③初めての中国語発音教室  
10月9日(土) 15:30~18:30

~~~~~

主催—練馬中文教室

会場—練馬区役所本庁舎 ①20階 ②③19階
都営地下鉄大江戸線 練馬駅徒歩7分

講師—②③元日中学院副院長 鈴木 繁先生

参加費—①~③とも 各回 1000円

学生:200円、わんりい会員は500円

申し込み先—☎ 090-3509-2021 (要予約)



◇満柏画伯の漢訳俳句◇

今年の中秋節は9月21日です。
そして、月の俳句と言えばこれ！
云わずと知れた、松尾芭蕉の一句です。

名月や 池をめぐりて 夜もすがら

zhōngqiū míngyuè chí zhōngyǐng
中秋明月池中映，
yī yè wú fēng rào shuǐ í háng
一夜无风绕水行

2年振りに「あさおサークル祭り」に参加

2021年7月11日（日） 川崎市・麻生市民館

報告：寺西 俊英

■2年振りの「あさおサークル祭り」に参加

今年の「あさおサークル祭り」は、2年振りに開かれました。ただし東京都は新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言下であり、神奈川県もそれに準ずる宣言下にある関係で二つのクッキングの会をはじめ5団体が活動を中止せざるを得ない状況となりました。各会場の入口には当然消毒液と検温器具が置かれ、また活動をする場合はソーシャルディスタンスを守るなどの対応になったのは言うまでもありません。わんりいは例年通り、午前中は植田渥雄・桜美林大学名誉教授による「論語から学ぶ言葉の力」を、午後からは講師・Emmeさん（以下、エメさん）による「ボイストレーニング」となりました。それではそれぞれの活動を簡単に報告します。

●午前：論語から学ぶ言葉の力

植田先生による論語の講演は、視聴覚室に17名の受講者のもと10時半から始まりました。今年のテーマは、「郷原は、徳の賊なり」（陽貨第十七）でした。郷原の「郷」の字は、一つの集団とか行政単位を表す言葉とのこと。今回のテーマは少し分かりにくい言葉ですが、あえて平易に言えば——ある集団の中で評価の高い人は、徳にとって決して



いいことではない——という意味だそうです。植田先生は「孟子の説」を説明された後、分かり易い例を出しながら解説されました。「選挙に例をとると、選挙区の中でとても評判のいい立候補者がいますが、往々にして評判倒れと言うことがありますね」と話され更に、「私は政治家のようになるなよ！と孔子から言われているような気がします」と笑いながらお話になられました。講演の最後には質問の時間を設け、参加者から幾つかの質問等があり、予定通り12時に終了しました。



●午後：ボイストレーニング

午後は1時半から8名の参加のもと、同じ会場でエメさんによるボイストレーニングが始まりました。コロナの関係で参加者は例年より少なかったのですが、少人数に合ったトレーニングをしていただきました。顔や喉の普段使わない筋肉の動かし方などの指導があり、休憩を都度挟みながら体を動かしました。声がしっかりと出るようになって、昔テレビでの人気番組「夢で逢いましょう」のテーマ曲を歌うことになりました。歌うに当たってエメさんはこの歌に合わせた手話を披露され、皆も見よう見まねで手話に挑戦し、数回楽しく歌いました。色々と収穫のあった1時間半でした。

第17回 日中水墨協会主催
日中水墨協会展・中国優秀芸術家展

会期：10月5日(火)～10月10日(日)
時間：10：00～18：00
会場：神奈川県民ホールギャラリー
(神奈川県民大会堂画廊) 入場無料
アクセス：みなとみらい線
日本大通り駅3番出口徒歩8分

【わんりいの催し】

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

- 会場：まちだ中央公民館
- 日時：9月28日(火)美術工芸室
10月26日(火)美術工芸室
共に 10：00～11：30
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 申込：☎042-735-7187 (鈴木)

~~~~~

❀❀ 中国語で読む 漢詩の会 ❀❀

- 会場：まちだ中央公民館
- 日時：9月19日(日)視聴覚室  
10月10日(日)視聴覚室  
共に 10：00～11：30
- 講師：植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授  
現桜美林大学孔子学院講師
- 会費：1,500円 (会場費・講師謝礼)
- 申込：☎090-1425-0472 (寺西)

~~~~~

【わんりいの参加予定行事】

コロナの影響で、昨年は開催されなかった、夢広場・まちカフェ共に、今年はポッポ町田で開催されます。お楽しみに！

詳細は10月号でご案内いたします。
夢広場……11月3日(水・祝)
まちカフェ……11月27日(日)

■ 9月・10月定例会 代表宅

- ▲ 9月 7日(火)13：30～
- ▲ 10月 8日(金)13：30～

■ 'わんりい' 発送 三輪センター

- ▲10月号 9月30日(木) 10：00

☆編集後記☆

皆さまはこの夏休みをどのように過ごされましたか？一家そろって帰省だ、キャンプだ、旅行だと、夏ならではの楽しい行事が二年続けて規制されて、夏の過ごし方がかわりましたね。何も出来なかったことが、夏の思い出になりそうです。

コロナ肺炎のパンデミックと同時に、地球上のあちこちで異常気象が発生しています。「異常気象のパンデミック」と言えるのではないのでしょうか。日本では、100年に一度の「異常な」豪雨災害が毎年のように発生して、もはや「通常」になりつつあります。

この二つのパンデミックを阻止するために、我々にも何か出来ることがあれば、是非協力したいものです。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します  
年会費：1800円、入会金なし  
郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい  
10月以降の入会は、当年度会費1000円。

■問合せ：044-986-4195 (寺西)

‘わんりい’266号の主な目次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 寺子屋・四字成語(45) 螳臂当车……………    | 2  |
| 「日译诗词」(15) 亡国の君主・李煜の〈詞〉…… | 3  |
| 「漢詩の会」だより(50) 柳宗元……………    | 4  |
| 中国の面白い神話伝奇物語(8)……………      | 6  |
| 秦皇島をご存知ですか(7)……………        | 8  |
| 「中日辞典」からの意外な発見(7)……………    | 10 |
| 四姑娘山だより(49)……………          | 12 |
| 『エスペラント』売れ行き快調！……………      | 13 |
| 満州走馬灯(1)……………             | 14 |
| みんなの広場……………               | 17 |
| ‘わんりい’活動報告……………           | 19 |
| ‘わんりい’の催し・お知らせ……………       | 20 |